

【オリコンサルグローバル インフラ需要に商機 アフリカ、東南アの計画参入】

オリコンサル  
グローバル

# インフラ需要に商機

## アフリカ、東南アの計画参入

ACKグループ(ACKG)が2日付で設立した100%子会社「オリエンタルコンサル



握手する廣谷社長  
(右から2人目ら)

ルタンツグローバル」の廣谷彰彦社長は24日、記者会見し「取締役全員が海外業務を熟知しているため、経営判断がスピーディーになる」と分社化のメリットを挙げ、グループの海外市場のリーディングカンパニーとして、開発コンサルタント業務の拡大と強化を図っていく方針を示した。

20日にオリエンタルコンサルタツと会社分割契約書を締結しており、海外顧客への説明など9月までの準備期間を経て、10月1日から新会社事業を開始する予定だ。海外での事業展開について

廣谷社長は、発展途上国の都市化率が急激に上昇していることを踏まえ、「水、食料、コミュニケーションを含めたサービスなどを提供するたため、インフラ需要が増えているのは確実だ。そこに商機を見いだそうと思っている」と戦略を示した。また、アジア太平洋地域は引き続き力を入れていくとし、「これまでは日本を中心にさまざまなことを考えてきたが、いろいろな所に拠点を展開し、自由かつ達な商売を続けることで、われわれの将来が見えてくる」と見通した。

同社の注力する地域として、インフラ需要の継続が見込まれるアジアをメインターゲットとしてとらえるほか、アフリカや中東も潜在需要が見込まれるとし、投資を含めて取り組む。事業分野では、強みである交通運輸関係を引き続き強化するとともに、アフリカ、東南アジアなどで計画分野から参入することで新しいインフラ事業を打ち出していく方針だ。

また、防災や災害対応、耐震設計など日本が強い技術を世界市場で生かし、ODA(政府開発援助)や国内で培った技術を武器に、グローバルビジネスを展開していく。新会社は、従業員数327人、うち役員は5人。資本金4億9000万円。売上高(2013年9月実績)は102億円。